平成30年11月26日 第4回民生委員・児童委員活動に関する検討委員会作業部会
における主な意見

1 個別支援活動の向上について

<研修について>

- ・単位民児協そのものが、様々な研修もあれば行政からの説明会もある。単位民児協の場をなるべく活用し、研修も含めてそこで行っている場合が多い。(都民連代表)
- ・地元では主任児童委員部会、子育て支援部会、児童部会の3部会で児童関連3部会を立ち上げており、ここ10年間は、毎年児童に関係する研修を企画実施している。(都民連代表)
- ・四者協は非常に大きい研修であるし、地区の部会ごとに集まって勉強会もしている。研修は非常に充実していると思う。(都民連代表)
- ・都民連が行う研修は広域であるため、民児協で、事務局にも協力していただきつつ、地元のニーズや課題に応じた研修をやっていただく。この2本立てで民生委員の研修をカバーしていくというような体系が必要と思っている。(幹事)
- ・質、量ともに十分な研修が行われていると思うが、どういう研修があるかということをもう少し整理していただけるとよい。(学識経験者)

2 児童委員活動の充実について

<主任児童委員と区域担当との連携について>

- ・学校が守秘義務の点で主任児童委員を重用しているのは明らかなので、窓口は主任児童委員になってもらい、見守りの部分を区域担当の民生委員にやってもらうというふうに、分けていけばいいと思っている。会長の側にも、主任児童委員の側にも、両方で情報を共有するように、声かけがなかったならば、どちらからでも声をかけて伝えることを心がけている。(都民連代表)
- ・地元では、主任児童委員、地域担当、会長の3人で共通認識を持って活動している。(都民連代表)

<児童委員活動について>

- ・委員全員が子育てサロンの会員になっている。また、スマイルカードを日常的に首から下げるスマイル運動を開始予定で、校長会に諮って了解をもらい、小中学校に周知をした。(都民連代表)
- ・保育園、幼稚園、小中学校に学校担当児童委員をつけており、学校訪問をするときは学校担当児童委員を通して。学校とのつながりで情報を持ってくることもある。(都民連代表)

- ・私は民生委員・児童委員ですという意識が常にあるようにしようと作ったのが、東京版活動強化方策であると思う。主任児童委員と区域担当との関係、学校との関係といった一部の問題ではなく、民生委員は児童委員でもあるということを常に意識することが大切だと思う。
(都民連代表)

<四者協について>

- ・四者協を開催することによって、それぞれの持ち場の仕事の範囲や限界を理解し、連携するのが大事なことかと思うので、児童委員や主任児童委員の役割を知ってもらう場という認識で四者協を位置づけている。(都民連代表)
- ・四者協は形式的なものであったため、ミニ四者協を立ち上げ、20年来続けている。各地区でミニ四者協を行った後に全体四者協を行っている。詳しく知りたいテーマについてはミニで取り扱っており、かなり具体的な話ができている。また、毎月1回の主任児童部会では、児童福祉司やスクールソーシャルワーカー等が来て、各地区の事例を検討している。(都民連代表)

赤ちゃん訪問について

<実施地区の状況について>

- ・地元で実施している乳児家庭全戸訪問事業は、保健師が訪問したお子さんの訪問の記録を、地区の区域担当及び主任児童委員に情報提供し、通常は保健師が訪問した後に、民生委員に訪問していただいているものである。(区市町村代表)
- ・妊婦のときに保健センターで面接をするゆりかご面接の際に、情報提供として、赤ちゃんが生まれたら、民生委員が本を持って訪問すると伝えている。(区市町村代表)

<赤ちゃん訪問の要望について>

- ・赤ちゃん訪問の際に、保健師が地区の区域担当を同行するような形をつくると、日常的な相談やつながりができる。子育て家庭を支える地域の力を育むということで、行政だけではできない部分を地域にしてもらおうという意味では、民生委員をキーパーソンとして、行政がもっと紹介をするなり、活動しやすい環境をつくってもらえるといいと思う。(学識経験者)

3 協働による地域福祉活動について

<ネットワークの区分けについて>

- ・児童、高齢、障害、生活といった対象領域ごとに分け整理されているが、実際にはそのテーマの会議でなくても、高齢と生活困窮など、いろいろなテーマが重なり合っていて、領域ごとに分けること自体が実態と重なってこない可能性も出てくるので、1層、2層、3層での整理も今後必要になってくると思う。(学識経験者)
- ・ネットワーク自体の構造や機能をどのようにつくるのか、行政の発想や運用の仕方が、民生委員の負担感にも影響すると思う。活動が十分にできるように、行政の仕組みをシンプルにしていくことが肝要だと思う。(学識経験者)

<地域における協働について>

- ・中学校区単位で地域包括支援センターができており、そこで、その地域の民生委員と情報交換会をするということが、昨年からはまった。これが小学校単位ぐらいになると、この子供はどこのおばあちゃんがいる、おじいちゃんがいるとつながって、我々は動きやすい。地域福祉コーディネーター等とうまく連携していけば、何回も色々な会議に出る必要もなく、小単位で色々な情報、その地域の対応ができると思っている。(都民連代表)